

介護福祉士実務者研修 授業概要及び研修カリキュラム

設置者及び研修施設

医療法人 いちえ会

人材育成研修施設 ひといく伊月

令和4年12月27日 作成

科目名	人間の尊厳と自立		
到達目標	尊厳の保持、自立の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解		
履修時間	研修形態	研修担当者	研修実施期間
5時間	通信	専任教員・一般教員	1ヶ月
研修目的	尊厳の保持、自立の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解		
研修内容	テキストを熟読し、受講者の理解を深めたうえで、自宅学習確認問題にて理解度を評価する		
研修日程・各回のテーマ・内容・研修方法			
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法
1	1月目～ 6月目	<u>人間の尊厳と自立</u>	<p>1.人間の尊厳についての知識、理解を深め、それを尊重するとは、または侵害するとはどういうことなのかを理解する</p> <p>2.尊厳を保護するために必要なノーマライゼーション、それに付随するバリアフリーやユニバーサルデザインの考えを理解する</p> <p>3.プライバシーの保護、守秘義務及び生活に対して介入されること等を含めた権利擁護または虐待、ハラスメントについて理解する</p> <p>4.介護の基本的な理念について利用者本位、自立支援、自己決定の視点から理解する</p>
資料・テキスト	中央法規 介護福祉士実務者研修テキスト		
評価基準	教材に沿って自己学習し、本研修が定める選択式問題10問のうち7問以上で合格とする 不合格については、修了者認定となるまで繰り返し選択式問題、もしくは記述式のレポートを再提出する		

科目名	社会の理解Ⅰ		
到達目標	介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる		
履修時間	研修形態	研修担当者	研修実施期間
5時間	通信	専任教員・一般教員	1ヶ月
研修目的	介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し利用者等に助言		
研修内容	テキストを熟読し、受講者の理解を深めたうえで、自宅学習確認問題にて理解度を評価する		
研修日程・各回のテーマ・内容・研修方法			
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法
1	1月目～ 6月目	介護保険制度	<p>1.介護保険制度の体系と目的について創設までの経緯、制度の意義、保険給付等について理解する</p> <p>2.介護保険制度のサービスの種類と内容について、介護給付・予防給付の理解をする</p> <p>3.介護保険サービスの利用までの流れについて申請からサービスの利用までの流れを理解させる</p> <p>4.介護保険制度の利用者負担、保険料等の金銭に関する概要を理解する</p> <p>5.介護保険制度における専門職の役割について介護支援専門員、介護福祉士等の関連職種を理解をする</p>
資料・テキスト	中央法規 介護福祉士実務者研修テキスト		
評価基準	教材に沿って自己学習し、本研修が定める選択式問題10問のうち7問以上で合格とする 不合格については、修了者認定となるまで繰り返し選択式問題、もしくは記述式のレポートを再提出する		

科目名	社会の理解 II		
到達目標	①家族、地域、社会との関連から生活と福祉をとらえることができる ②地域共生社会の考え方と地域包括ケアのしくみについての基本的な知識を習得している ③社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を習得している ④障害者総合支援法の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる ⑤成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関連する制度の概要を理解している		
履修時間	研修形態	研修担当者	研修実施期間
30時間	通信	専任教員・一般教員	1ヶ月
研修目的	社会と生活のしくみ、地域共生社会の実現に向けた制度や施策、社会保障制度、障害者総合支援法、介護実践に関する諸制度の理解		
研修内容	テキストを熟読し、受講者の理解を深めたうえで、自宅学習確認問題にて理解度を評価する		
研修日程・各回のテーマ・内容・研修方法			
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法
1	1月目～6月目	社会と生活のしくみ 地域共生社会の実現に向けた制度や施策	○家族との生活と福祉について家族構成の変容、家族の機能。浪々・独居高齢者等の家族形態について理解し、現在の生活、福祉に関連する地域社会の構造と福祉についての理解する ○社会との関連福祉について、地域支援事業、地域包括ケアシステムを中心とした地域ケアを理解する
1	1月目～6月目	社会保障制度	○社会保障制度の意義、目的、体系、財源について理解する（児童福祉、生活保護、地域福祉、居宅施策等）
1	1月目～6月目	障害者総合支援法	○障害者総合支援法の目的について障害者基本法、自立支援法、総合支援法について理解する ○障害者総合支援法の利用までの流れについて介護給付費の申請から支給量の決定、不服申し立てや利用負担について理解する ○障害者総合支援法における専門職、都道府県・市町村、福祉事務所等の関連職種、事業所の役割を理解する
1	1月目～6月目	介護実践に関する諸制度	○成年後見人制度について目的や補佐等の役割にや職務の権限等について理解する ○生活保護制度について、目的、原則、保護の種類等について理解する ○保健医療サービス等について、地域医療、地域保健、地域福祉それぞれについて理解する
資料・テキスト	中央法規 介護福祉士実務者研修テキスト		
評価基準	教材に沿って自己学習し、本研修が定める選択式問題60問のうち42問以上で合格とする 不合格については、修了者認定となるまで繰り返し選択式問題、もしくは記述式のレポートを再提出する		

科目名	介護の基本Ⅰ		
到達目標	①介護福祉士の法的な定義や義務を踏まえ、介護予防や看取り、災害時における介護福祉士の役割を理解する ②個別ケア、ＩＣＦ、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解する ③介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守できる		
履修時間	研修形態	研修担当者	研修実施期間
10時間	通信	専任教員・一般教員	1ヶ月
研修目的	介護福祉士の役割と機能、尊厳の保持と自立に向けた介護の考え方と展開、介護福祉士の倫理		
研修内容	テキストを熟読し、受講者の理解を深めたうえで、自宅学習確認問題にて理解度を評価する		
研修日程・各回のテーマ・内容・研修方法			
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法
1	1月目～6月目	介護福祉士の役割と機能	○介護福祉士制度について、概要と資格取得までのルート等を理解する ○介護福祉制度の定義について、介護福祉士の義務、業務、倫理を含めて理解し、今後の求められる介護人材、キャリアパスについて学ぶ
1	1月目～6月目	尊厳の保持と自立に向けた介護	○尊厳の保持と自立に向けた介護展開のプロセスについて、尊厳と自立支援、信頼関係構築のための基本的態度等について理解する ○個別ケアの考え方やコミュニケーションに加え、ＩＣＦの考え方に基づいたケアマネジメント、アセスメントの重要性を理解する
1	1月目～6月目	介護福祉士の倫理	○介護福祉士の職業倫理について、介護サービスの公共性や専門職としての倫理を理解する ○虐待防止について、高齢者虐待防止法に基づき、身体的虐待、心理的虐待、ネグレクト等の定義を理解する
資料・テキスト	中央法規 介護福祉士実務者研修テキスト		
評価基準	教材に沿って自己学習し、本研修が定める選択式問題20問のうち14問以上で合格とする 不合格については、修了者認定となるまで繰り返し選択式問題、もしくは記述式のレポートを再提出する		

科目名	介護の基本Ⅱ		
到達目標	①介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる ② チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を習得している ③ リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を習得している ④ 介護従事者の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を習得している		
履修時間	研修形態	研修担当者	研修実施期間
20時間	通信	専任教員・一般教員	1ヶ月
研修目的	介護を必要とする人の生活の理解と支援、介護実践における連携、介護における安全の確保とリスクマネジメント、介護従事者の安全		
研修内容	テキストを熟読し、受講者の理解を深めたうえで、自宅学習確認問題にて理解度を評価する		
研修日程・各回のテーマ・内容・研修方法			
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法
1	1月目～6月目	介護を必要とする人の生活の理解	○介護を必要とする方の生活、ニーズを理解し、老化や障害が身体、心理に及ぼすニーズについて把握する ○介護を必要とする方の課題について加齢、鍾愛、疾病、日常生活等の各カテゴリごとに理解する
1	1月目～6月目	介護実践における連携	○チームアプローチについてメンバーや手法について理解する ○チームアプローチにおける介護支援専門伊藤の各職種の役割、地域包括支援センター当の自治体の役割、病院当の医療施設野や桑をを理解する
1	1月目～6月目	介護における安全の確保とリスクマネジメント	○安全確保についてのリスクとそのマネジメント、予防・対応策について理解する ○事故防止について、予防マニュアルの整備、発生後の対応、介護事故に関する知識についての理解をする ○感染管理とその予防、または発生後の対応について理解する ○労働安全対策、介護者の心身の健康管理について介護業務で考えられることについて理解する
資料・テキスト	中央法規 介護福祉士実務者研修テキスト		
評価基準	教材に沿って自己学習し、本研修が定める選択式問題40問のうち28問以上で合格とする 不合格については、修了者認定となるまで繰り返し選択式問題、もしくは記述式のレポートを再提出する		

科目名	コミュニケーション技術		
到達目標	①本人・家族との支援関係を構築し、意志決定を支援することができる ②利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる ③チームマネジメント（組織の運営管理、人材管理、リーダーシップ・フォロワーシップ等）に関する知識を理解し、活用できる ④状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる		
履修時間	研修形態	研修担当者	研修実施期間
20時間	通信	専任教員・一般教員	1ヶ月
研修目的	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション、利用者の機能に応じたコミュニケーション、介護におけるチームマネジメント		
研修内容	テキストを熟読し、受講者の理解を深めたうえで、自宅学習確認問題にて理解度を評価する		
研修日程・各回のテーマ・内容・研修方法			
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法
1	1月目～6月目	利用者・家族とのコミュニケーション	○利用者とのコミュニケーションについて、バーバル・ノンバーバル等の各手法、または家族、利用者等のニーズの統合について理解する ○そうだ年所技術について、ソーシャルワークの機能と基本原則、ケースワーク、ケアマネジメント等について理解する
1	1月目～6月目	利用者の機能に応じたコミュニケーション	○コミュニケーションに係る各障害とコミュニケーションの手法について理解する
1	1月目～6月目	介護におけるチームマネジメント	○情報の共有化、記憶、報告、会議等のチームにおけるコミュニケーションについての手法を事例に基づいて理解する
資料・テキスト	中央法規 介護福祉士実務者研修テキスト		
評価基準	教材に沿って自己学習し、本研修が定める選択式問題40問のうち28問以上で合格とする 不合格については、修了者認定となるまで繰り返し選択式問題、もしくは記述式のレポートを再提出する		

科目名	生活援助技術Ⅰ		
到達目標	①生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している ② ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる ③ 自立に向けた生活支援技術の基本（移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等）を習得している ④ 居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の生活環境を整備する視点・留意点を理解している		
履修時間	研修形態	研修担当者	研修実施期間
20時間	通信	専任教員・一般教員	1ヶ月
研修目的	生活支援とICF、ボディメカニクスの活用、生活支援技術の基本（移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等）、環境整備、福祉用具活用等の視点		
研修内容	テキストを熟読し、受講者の理解を深めたうえで、自宅学習確認問題にて理解度を評価する		
研修日程・各回のテーマ・内容・研修方法			
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法
1	1月目～6月目	生活支援とICF	○生活支援におけるICFの意義、役割とICFに基づいた介護、生活援助技術、アセスメントについて理解する
1	1月目～6月目	ボディメカニクスの活用	○ボディメカニクスの原則と介護・日常生活への応用を実例を踏まえて理解する
1	1月目～6月目	生活支援技術の基本と福祉用具の活用	○移動・移乗、食事、入浴、排泄、更衣、整容、口腔ケア等の各生活支援技術についての基本と技術について理解、習得する ○居住環境やその環境に対する福祉用具の選定、応用について理解する
資料・テキスト	中央法規 介護福祉士実務者研修テキスト		
評価基準	教材に沿って自己学習し、本研修が定める選択式問題40問のうち28問以上で合格とする 不合格については、修了者認定となるまで繰り返し選択式問題、もしくは記述式のレポートを再提出する		

科目名	生活援助技術 II		
到達目標	利用者の心身の状態に合わせた生活支援技術 環境整備、移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、休息、睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具等の活用		
履修時間	研修形態	研修担当者	研修実施期間
30時間	通信	専任教員・一般教員	1ヶ月
研修目的	利用者の心身の状態に合わせた生活支援技術 (<u>環境整備、移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、休息、睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具等の活用</u>)		
研修内容	テキストを熟読し、受講者の理解を深めたうえで、自宅学習確認問題にて理解度を評価する		
研修日程・各回のテーマ・内容・研修方法			
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法
1	1月目～ 6月目	移動・移乗、入浴、排泄の介助	○各介助についての基礎、応用、留意点に加え、介助者の姿勢、体制などの体の使い方を理解する
1	1月目～ 6月目	食事、口腔ケア、更衣、整容、睡眠の介助	○各介助についての基礎、応用、留意点に加え、介助者の姿勢、体制などの体の使い方を理解する
1	1月目～ 6月目	環境整備、福祉用具の活用、人生の最終段階における介護	○福祉用具の種類、使用方法、選定、生活における活用方法について理解する ○ターミナルケアの意義、目的、家族との関り、チームアプローチについて理解する
資料・テキスト	中央法規 介護福祉士実務者研修テキスト		
評価基準	教材に沿って自己学習し、本研修が定める選択式問題60問のうち42問以上で合格とする 不合格については、修了者認定となるまで繰り返し選択式問題、もしくは記述式のレポートを再提出する		

科目名	介護課程Ⅰ		
到達目標	①介護過程の目的、意義、展開等を理解する ②介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う ③チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、他の職種の役割を理解する		
履修時間	研修形態	研修担当者	研修実施期間
20時間	通信	専任教員・一般教員	1ヶ月
研修目的	介護過程の基礎的知識、介護過程の展開、介護過程とチームアプローチ		
研修内容	テキストを熟読し、受講者の理解を深めたうえで、自宅学習確認問題にて理解度を評価する		
研修日程・各回のテーマ・内容・研修方法			
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法
1	1月目～6月目	介護過程の基礎的知識	○介護過程の目的、意義、ケアマネジメントとの違いを理解し、介護職の専門性を把握する
1	1月目～6月目	介護過程の展開	○目標に沿った計画的な介護について、ニーズ、欲求、アセスメント、モニタリング等の視点から理解する
1	1月目～6月目	介護過程とチームアプローチ	○介護過程におけるチームの職種と役割について理解する ○介護過程におけるチーム内での情報共有とその留意点、手法について理解する
資料・テキスト	中央法規 介護福祉士実務者研修テキスト		
評価基準	教材に沿って自己学習し、本研修が定める選択式問題40問のうち28問以上で合格とする 不合格については、修了者認定となるまで繰り返し選択式問題、もしくは記述式のレポートを再提出する		

科目名	介護課程Ⅱ		
到達目標	情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる		
履修時間	研修形態	研修担当者	研修実施期間
25時間	通信	専任教員・一般教員	1ヶ月
研修目的	介護過程の展開の実際、利用者の状態（障害、要介護度、医療依存度、居住の場、家族の状況等）について事例を設定し、介護過程を展開、観察のポイント、安全確保・事故防止、家族支援、他機関との連携等についても考察		
研修内容	テキストを熟読し、受講者の理解を深めたうえで、自宅学習確認問題にて理解度を評価する		
研修日程・各回のテーマ・内容・研修方法			
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法
1	1月目～6月目	介護過程の展開の実際	<ul style="list-style-type: none"> ○利用者情報の収集について、様々な手法、タイミングで多角的に情報を収集し、整理する事を理解する ○アセスメントを行う上で、どのような情報（ニーズ、課題、目標）が必要かをどのように計画し、介護を提供するかを理解する ○モニタリングや計画の見直しについて、SPDCAサイクルに基づいて作成することを理解する
資料・テキスト	中央法規 介護福祉士実務者研修テキスト		
評価基準	教材に沿って自己学習し、本研修が定める選択式問題50問のうち35問以上で合格とする 不合格については、修了者認定となるまで繰り返し選択式問題、もしくは記述式のレポートを再提出する		

科目名	介護課程Ⅲ		
到達目標	①実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に習得し、活用できる ②知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護（アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等）を提供できる ③介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行うことができる ④知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる		
履修時間	研修形態	研修担当者	研修実施期間
4 5 時間	通学	専任教員	3ヶ月
研修目的	①介護過程の展開の実際 ・多様な事例を設定し、介護過程を展開させるとともに、知識・技術を総合的に活用した分析力・応用力を評価する ②介護技術の評価 ・介護技術の原理原則の習得・実践とともに、知識・技術を総合的に活用した判断力、応用力を評価する		
研修内容	テキストを熟読し、受講者の理解を深めたうえで、自宅学習確認問題にて理解度を評価する		
研修日程・各回のテーマ・内容・研修方法			
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法
1	4ヶ月目 ～ 6ヶ月目	介護過程の展開の実際 介護過程の演習 介護技術の評価	○介護過程Ⅰ、Ⅱの復習
1			○演習1（課題分析、グループワーク） ○介護技術演習（ボディメカニクス、移動移乗）
1			○演習2（ICFに基づくアセスメント・グループワーク） ○介護技術演習（移動・移乗）
1			○演習3（ICFに基づくアセスメント・個別サービス計画・グループワーク） ○介護技術演習（移動・移乗）
1			○演習4（ICFに基づくアセスメント・個別サービス計画・グループワーク） ○介護技術演習（食事介助・整容動作）
1			○介護技術演習（排泄介助・入浴介助） ○個別サービス計画に基づく介護の実際（演習1・2・3・4）
1			○介護福祉士の実技試験とキャリア段位制度 ○実技評価試験
資料・テキスト	中央法規 介護福祉士実務者研修テキスト		
評価基準	①講義・演習で介護の知識・技術の習得度が到達目標に達しているか、指導者が評価を行う ②介護技術の評価は、実技試験を行い、各動作の複合的な組み合わせによる流れが手順通りにできており、適切に声掛け、リスク管理ができていて合格とする ③当科目は通学による履修が必須となっている。遅刻等の取扱いについては、学則に準ずる。当科目の履修時間が所定の時間の2/3に満たないものは、履修とみなさず、補講を要する		

科目名	こころとからだのしくみⅠ		
到達目標	介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を習得している		
履修時間	研修形態	研修担当者	研修実施期間
20時間	通信	専任教員・一般教員	1ヶ月
研修目的	介護に関係した身体のしくみの基礎的な理解（移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔等）		
研修内容	テキストを熟読し、受講者の理解を深めたうえで、自宅学習確認問題にて理解度を評価する		
研修日程・各回のテーマ・内容・研修方法			
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法
1	1月目～ 6月目	介護に関する身体のしくみの基礎的な理解	○移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔等の各動作に身体のメカニズムやそれに関連する身体の機能・構造について理解する
資料・テキスト	中央法規 介護福祉士実務者研修テキスト		
評価基準	教材に沿って自己学習し、本研修が定める選択式問題40問のうち28問以上で合格とする 不合格については、修了者認定となるまで繰り返し選択式問題、もしくは記述式のレポートを再提出する		

科目名	こころとからだのしくみⅡ		
到達目標	①人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を理解する ②生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を理解する ③身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、観察・アセスメント、関連する職種との連携が行える		
履修時間	研修形態	研修担当者	研修実施期間
60時間	通信	専任教員・一般教員	1ヶ月
研修目的	人間の心理、人体の構造と機能、身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護における観察・アセスメント のポイント、連携等の留意点（移動・移乗・食事・入浴・清潔保持・排泄・着脱・整容、口腔清潔・休息・睡眠・人生の最終段階のケア）		
研修内容	テキストを熟読し、受講者の理解を深めたうえで、自宅学習確認問題にて理解度を評価する		
研修日程・各回のテーマ・内容・研修方法			
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法
1	1月目～6月目	人間の心理	○人間の欲求、学習、記憶について理解する
1	1月目～6月目	人体の構造と機能	○生命を維持するうえで必要な人体の基本的知識等に関する知識を理解する ○人体の動きに必要なボディメカニクスについて理解する
1	1月目～6月目	身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護における観察・アセスメントのポイント、連携等の留意点	○身体・心・認知機能の観点から各生活動作（移動・移乗・食事・入浴・清潔保持・排泄・着脱・整容、口腔清潔・休息・睡眠・人生の最終段階のケア）を総合的に介護についてアセスメント、モニタリング、リスク管理、他職種連携の様々な観点から理解する
資料・テキスト	中央法規 介護福祉士実務者研修テキスト		
評価基準	教材に沿って自己学習し、本研修が定める選択式問題120問のうち84問以上で合格とする 不合格については、修了者認定となるまで繰り返し選択式問題、もしくは記述式のレポートを再提出する		

科目名	発達と老化の理解 I		
到達目標	①老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している ②老化に伴う身体機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している		
履修時間	研修形態	研修担当者	研修実施期間
10時間	通信	専任教員・一般教員	1ヶ月
研修目的	老化に伴う心の変化と日常生活への影響、老化に伴うからだの変化と日常生活への影響		
研修内容	テキストを熟読し、受講者の理解を深めたうえで、自宅学習確認問題にて理解度を評価する		
研修日程・各回のテーマ・内容・研修方法			
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法
	1月目～ 6月目	老化に伴う心の変化と日常生活	○老化に伴う心理的な変化を理解する
	1月目～ 6月目	老化に伴う身体の変化と日常生活	○老化に伴う身体的な変化を理解する
資料・テキスト	中央法規 介護福祉士実務者研修テキスト		
評価基準	教材に沿って自己学習し、本研修が定める選択式問題20問のうち14問以上で合格とする 不合格については、修了者認定となるまで繰り返し選択式問題、もしくは記述式のレポートを再提出する		

科目名	発達と老化の理解 II		
到達目標	①ライフサイクル各期の発達の定義、発達段階、発達課題について理解している ②老年期の発達課題、心理的な課題（老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等）と支援の留意点について理解している ③高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している		
履修時間	研修形態	研修担当者	研修実施期間
20時間	通信	専任教員・一般教員	1ヶ月
研修目的	人間の成長・発達、老年期の発達・成熟と心理、高齢者に多い症状・疾病等と留意点		
研修内容	テキストを熟読し、受講者の理解を深めたうえで、自宅学習確認問題にて理解度を評価する		
研修日程・各回のテーマ・内容・研修方法			
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法
1	1月目～6月目	人間の成長・発達	○人間の発達の定義、発達段階等の高齢化と発達について理解する ○発達課題についてライフステージごとの発達課題、地域社会、生活問題等を理解する
1	1月目～6月目	老年期の発達・成熟と心理	○老年期の発達課題としての「老い」とその自覚、受容過程について理解する ○老化、障害による身体機能、生活機能の低下、社会的役割の喪失と支援について理解する
1	1月目～6月目	高齢者に多い症状・疾病と留意点	○高齢者に多い生活習慣病位、身体、循環器、呼吸器、消化器等の症状、疾病について理解する
資料・テキスト	中央法規 介護福祉士実務者研修テキスト		
評価基準	教材に沿って自己学習し、本研修が定める選択式問題40問のうち28問以上で合格とする 不合格については、修了者認定となるまで繰り返し選択式問題、もしくは記述式のレポートを再提出する		

科目名	認知症の理解Ⅰ		
到達目標	①認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している ②認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している ③認知症の人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解している		
履修時間	研修形態	研修担当者	研修実施期間
10時間	通信	専任教員・一般教員	1ヶ月
研修目的	認知症ケアの理念、認知症による生活障害、心理・行動の特徴、認知症の人や家族へのかかわり・支援の基本		
研修内容	テキストを熟読し、受講者の理解を深めたうえで、自宅学習確認問題にて理解度を評価する		
研修日程・各回のテーマ・内容・研修方法			
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法
1	1月目～ 6月目	認知症ケアの理念	○認知症ケアの理念、病気の特性やそのケアの基本的な考え方について理解する ○認知症ケアの基本となるパーソンセンタードケア、疾患別のケア方法について理解する
1	1月目～ 6月目	認知症による生活上の障害	○認知症による身体的・心理的特徴や中核症状、BPSDなどが生活へどのように影響するかを理解する
1	1月目～ 6月目	認知症の人や家族へのかかわり・支援の基本	○認知用の人やその家族との関わりや不適切な関わり方について理解する
資料・テキスト	中央法規 介護福祉士実務者研修テキスト		
評価基準	教材に沿って自己学習し、本研修が定める選択式問題20問のうち14問以上で合格とする 不合格については、修了者認定となるまで繰り返し選択式問題、もしくは記述式のレポートを再提出する		

科目名	認知症の理解 II		
到達目標	①代表的な認知症（若年性認知症を含む）の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している ②認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、本人主体の理念に基づいた支援ができる ③地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる		
履修時間	研修形態	研修担当者	研修実施期間
20時間	通信	専任教員・一般教員	1ヶ月
研修目的	医学的側面から見た認知症の理解、認知症の人への支援の実際		
研修内容	テキストを熟読し、受講者の理解を深めたうえで、自宅学習確認問題にて理解度を評価する		
研修日程・各回のテーマ・内容・研修方法			
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法
1	1月目～6月目	医学的側面から見た認知症	○認知症の原因疾患、種類と原因及び進行について学び、どのような症状があり、どのように関わるかケアをするかについて理解する ○認知症の検査・評価方法及び治療について理解する
1	1月目～6月目	認知症の人や家族への支援	○認知症の方に対する身体的・精神的・日常生活動作・家族関係・地域場面等の多角的な視点でのアセスメント及びサポート体制について理解する ○認知症の方に対するインフォーマルサポート、チームアプローチ、認知症予防等の地域サポート体制について理解する
資料・テキスト	中央法規 介護福祉士実務者研修テキスト		
評価基準	教材に沿って自己学習し、本研修が定める選択式問題40問のうち28問以上で合格とする 不合格については、修了者認定となるまで繰り返し選択式問題、もしくは記述式のレポートを再提出する		

科目名	障害の理解Ⅰ		
到達目標	①障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している ②障害（身体・知的・精神・発達障害・難病等）による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している ③障害のある人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解している		
履修時間	研修形態	研修担当者	研修実施期間
10時間	通信	専任教員・一般教員	1ヶ月
研修目的	障害者福祉の理念、障害による生活障害、心理・行動の特徴、障害のある人や家族へのかかわり・支援の基本		
研修内容	テキストを熟読し、受講者の理解を深めたうえで、自宅学習確認問題にて理解度を評価する		
研修日程・各回のテーマ・内容・研修方法			
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法
1	1月目～ 6月目	障害者福祉の理念	○障害者福祉の理念やノーマライゼーション等の考え方を理解する ○障害の概念、基本的考え方について理解する
1	1月目～ 6月目	障害の特徴と生活上の障害	○身体・知的・精神・発達等の障害者の心理、行動の特徴及び生活上の障害等を理解する
1	1月目～ 6月目	障害のある人や家族への関わり・支援体制	○障害児及び障害者の家族との関わりと支援、信頼関係の構築等について理解する
資料・テキスト	中央法規 介護福祉士実務者研修テキスト		
評価基準	教材に沿って自己学習し、本研修が定める選択式問題20問のうち14問以上で合格とする 不合格については、修了者認定となるまで繰り返し選択式問題、もしくは記述式のレポートを再提出する		

科目名	障害の理解Ⅱ		
到達目標	①様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を習得している ②障害の特性、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる ③地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる		
履修時間	研修形態	研修担当者	研修実施期間
20時間	通信	専任教員・一般教員	1ヶ月
研修目的	医学的側面からみた障害の理解、障害の特性に応じた支援の実際		
研修内容	テキストを熟読し、受講者の理解を深めたうえで、自宅学習確認問題にて理解度を評価する		
研修日程・各回のテーマ・内容・研修方法			
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法
1	1月目～ 6月目	医学的側面から見た障害の理解	○身体・視覚・言語・等の各障害についての定義、原因・特性・機能の変化、特徴等について理解する
1	1月目～ 6月目	障害の特性に応じた支援の実際	○障害者の障害の背景やアセスメントと支援について理解する ○障害に対する介護過程の展開と個別支援計画の作成と実行について、介護の視点からだけでなく地域支援の観点も含めて理解する
資料・テキスト	中央法規 介護福祉士実務者研修テキスト		
評価基準	教材に沿って自己学習し、本研修が定める選択式問題40問のうち28問以上で合格とする 不合格については、修了者認定となるまで繰り返し選択式問題、もしくは記述式のレポートを再提出する		

科目名	医療的ケア		
到達目標	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する		
履修時間	研修形態	研修担当者	研修実施期間
50時間	通信	専任教員・一般教員	1ヶ月
研修目的	医療的ケア実施の基礎、喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）、経管栄養（基礎的知識・実施手順）、演習		
研修内容	テキストを熟読し、受講者の理解を深めたうえで、自宅学習確認問題にて理解度を評価する		
研修日程・各回のテーマ・内容・研修方法			
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法
1	1月目～ 6月目	医療的ケアの実践の基礎	○清潔保持、感染予防、健康状態の把握等の医学的な安全管理体制について理解する
1	1月目～ 6月目	喀痰吸引・経管栄養（基礎的知識・実施手順）	○高齢者及び障害者・児の喀痰吸引、経管栄養を実施するうえでの概論、手順、留意点について理解する
資料・テキスト	中央法規 介護福祉士実務者研修テキスト		
評価基準	教材に沿って自己学習し、本研修が定める選択式問題100問のうち70問以上で合格とする 不合格については、修了者認定となるまで繰り返し選択式問題、もしくは記述式のレポートを再提出する		

科目名	医療的ケア（演習）		
到達目標	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する		
履修時間	研修形態	研修担当者	研修実施期間
9時間	通学	担当教員（看護師）	1ヶ月
研修目的	医療的ケア実施の基礎、喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）、経管栄養（基礎的知識・実施手順）の習得		
研修内容	医療的ケアで学んだ医療的ケアを人体模型に対し行う手順、留意事項を遵守したうえで出来るかを評価する		
研修日程・各回のテーマ・内容・研修方法			
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法
1	4ヶ月目 ～	演習（喀痰吸引）	○口腔内喀痰吸引（5回以上） ○鼻腔内喀痰吸引（5回以上） ○気管カニューレ内部喀痰吸引（5回以上）
1	6ヶ月目	演習（経管栄養・救急蘇生法）	○胃瘻・腸瘻による経管栄養（5回以上） ○経鼻経管栄養（5回以上） ○救急蘇生法（1回以上）
資料・テキスト	中央法規 介護福祉士実務者研修テキスト		
評価基準	それぞれの演習内容の手順、留意事項等を評価する 減点方式とし、70%以上で合格とする 70%に満たない場合、合格になるまで再評価を行う		